

---

# 不死身の炎将軍

わさび

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

不死身の炎将軍

### 【NZコード】

N8252Y

### 【作者名】

わさび

### 【あらすじ】

1940年春—ネウロイの攻撃が激化する中、スオムス義勇独立飛行中隊に扶桑から一人の増援が送りつけられた。

## いらん子將軍

名前：八意 淳 やうじ じゅん

所属：扶桑皇國海軍

年齢：不詳、外見は二十代前半

身長：170前半くらい

体型：標準

使い魔：不死鳥

階級：中将

2つ名：不死身の炎將軍

固有魔法：不老不死、火炎

? 絶対に死なない老いない。けど人の二倍痛い。

? 魔力を火として具現化させて操作する。

結構便利

性格：過去に色々あつて、上官恐怖症になつた。あまり真面目ではないが、上官には忠実。

何かあれば即銃殺刑にされる。死なないから。不明な事が多い。

上層部が色々弱みを握つてたり、過去を隠しているため、不明。

### 装備

深秋：日本刀、骨董市で買った。

無銘で室町初期に作られた。

白い軍服：海上自衛隊のものに瓜二つ

顔立ちは日本人  
メガネ着用

戦闘：将官なのに前線に出る。

書類と戦う方が得意

派手に戦う

本人曰わく面倒臭いから焼き扱う。  
ストライカーユニットは着けない  
いつも赤い羽が生えてる。  
浮遊しつつ魔弾で焼き扱う。

## いひご子将軍（後書き）

とにかく、この作品は続けるつ！！

以上

## 第1話／スオムス派遣

「中将！…起きてください！…中将！…」

誰かが私を呼んでいるようだ…だが瞼が重くて開かない。

「後50年…」

私はいつも通りに返す。

「中将…着きましたよ？」

どこに？…ああ…スオムスか。

私は一昨日スオムスに行く為に扶桑を出たんだ。

回想

「八意君、君にはスオムスへ行つて貰う。そこでスオムス義勇独立飛行中隊を指揮してもらつ。異論は認めん。とつとと準備せんか！」

「牟田口大将！…り、理不…」

「PAN! PAN! PAN!

「痛い！痛い！やめ…あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、」

突然発砲され、頭、腹、右目に風穴を開けられて悶絶する。

普通なら死ぬだろう。

そう…普通なら…

傷が凄い速さで塞がり、むくりと起き上がる八意

「大将酷いです…痛いんですから」

「貴様が吾輩に大人しく従わないのが悪いのだ。犬の分際で…」

「鳥でs…な、なんでもありません！八意湊！－！スオムスへ行きます！」

「つむ、よろしい。」

執務室を出ると、手早く準備して扶桑を発つたのだった

「酷い目にあつたものだよ…」

そうぼやくと、コートも羽織らずに極寒の大地に踏み出す。

智子 side

一昨日…突然扶桑から電報が届いた。  
そこにはただ一言

「 増援を一名贈る

その者の指揮下につけ

扶桑皇國」

とだけ書かれていた。

正直不安の方が大きい。どんな人物が来るのか?  
ウイツチなのか?

上層部のおっさんなのか?

いつ来るのか?  
何もわからない…

そして今扶桑からの物資と指揮官が届いたとの報を受け、みんなと外へ出迎えに行く。

湊 side

私が外に出ると、ウイッチ?達がわざわざ出迎えにきてくれたようだ。

「寒い中わざわざすまないね。」

私が降りると、ウイッチ達がざわめく。

「お、男だ!?」

「羽が生えてるよ!-!」

「想像より若い!-!」

ウイッチ達の中から、扶桑人形のような整った顔立ちの巫女服を着た人が前に出てきて…

「あの～増援の方ですか?」

「ええ、そつみたいです」

「立ち話も何ですし、ブリーフィングルームへ行きましょう。」

そう告げると基地の中に戻つて行く。

隊員たちの後ろを暫く歩いていき、ブリーフィングルームに入室する。

それぞれが席についた。自分は前に出て…

「私は八意湊。階級は中将です。扶桑皇国海軍所属です。新しく指揮官として来ましたが…指揮は今までやつていた方が取つてください。尚、これは上官命令ですので。ああ、そこの巫女さんから自己紹介をお願いします。」

智子 side

正直指揮を取れるのは良いけど…あの人なんか好かない。事務的といふか…感情が欠片も感じられない。  
しかもよりによつて将官か…気が重いよ。

「はいっ！六拭智子中尉です！宜しくお願いします！」

自己紹介を済ませると、中将が身につけている扶桑刀が気になつた。

次はビューリング side

ビューリング side

「ヒリザベス・F・ビューリング少尉だ。ブリタニアに居た」

「ああ～！～あの問題児の！」

新入りの中将殿は何故か私を知っているみたいだ。  
なんかこいつからは私と同じ匂いがする。

他と違う雰囲気の将軍様だこと…

「軍規違反82回、始末書232枚、嘗倉入り55回、軍法会議8回、銃殺刑0回…だね？私に劣らないスコアだね。銃殺刑の回数なら私が一番だらうね」

馬鹿な…あいつ今何で言つた？

「それってどうこいつ…」

「はい！次～！」

途中で遮られてしまつた。

まあ良い、後で聞き出しても…

湊 side

みんな終わつたみたいだね。

名前と顔、固有魔法に戦闘スタイルは把握できたのでよしとする。  
親睦でも深めるかな、

「私に質問がある方挙手～」

…まさかの全員

「ん～じゃあ…穴拭中尉。因みに私の事は皆さん好きに呼んで構いません。これから宜しくお願ひします！」

礼をする

皆驚いたような顔をしたが気にしたら負けだと思つた。

free-

将官が頭下げたよ…

皆が驚愕の表情を浮かべる。

今までこんな将官見たことないかも…

智子「中将は扶桑刀を持っているようですが戦闘には参加するのですか?」

足を引っ張られては困る…純粋にそう思つた

湊「はい、基本的に参加するよ。因みに危なくなったら引く事。私はもう仲間が死ぬのは見たくない」

湊の顔に影がさす。

彼は不死が故に生きていた。

今まで何度も仲間が目の前で命を散らした。  
彼一人だけが生き残つた。

「次は〜ビューリング」

「湊の固有魔法は?」

少尉が中将を呼び捨てにしたーしかもタメ口

その場の皆が凍りついた

「す、すみませんでした!!」

薄い金髪の少女ーエルマ中尉が何故か謝る

当のビューリングは中将をしつかり見据えて回答を待つ

「あ〜気にしてないで結構。気軽に接してくれると嬉しい。因みに固

有魔法は不老不死と火炎。

呼んで字の如くだ。

使い魔はフェニックス。不死鳥つてやつだ。

常に固有魔法の不老不死が発動されてるので羽が生えてる。詳しく述べると、皆が目を丸くする。

ハルカ 固有魔法が2つですか？

エルマ「良い人で良かつた…」

「じゃあ次ハグぞ」キヤサリン

「扶桑刀はいくらね?」

「ん? 32万円」

「高木一？」

バル丸と智子の声が被る

あ、こつちの物価に直すと32円か

「な、なんだ…」

それでも結構な金額だが、海軍中将にしたら気軽に買える値段だ。

そんなこんなで自己紹介と懇親会は終わつた。  
食事でハルカにお茶をかけられたり、質問責めにあつたりしたがそれはまた別のお話。

## フェーフェー

警報がけたたましい音をなす。

どうやらネウロイさんが襲つてきただよ。

湊「大型6中型15小型たくさんだ！ハルカ、キヤサリン、エルマが出撃！他は基地防衛！さあ出撃だ。お手並み拝見といぐ。危なくなつたら俺が援護する。いくぞ！！」

皆ユニットを履き、空へと飛び出していった。  
一人中将はユニットも銃も持たず、刀を持つと空へと飛び立った

第1話～スオムス派遣（後書き）

ぬはつ

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8252y/>

---

不死身の炎将軍

2011年11月24日20時48分発行